

カワガラス

Cinclus pallasi

カワガラス科・留鳥



カワガラス

名前の由来

川にすみ、カラスのように全身黒いことに由来すると思われる。漢字名：河鳥

魚類

底生動物

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）22cm。全身チョコレート色で足は銀灰色。尾が短い独特の体型を持つ。

声：飛びながら力強く「ビッ、ビッ」と鳴く。

さえずりは早春の頃から。川の中や岸辺の岩や倒木にとまり、「ピスピス、ジョッジョッ、ピリッ、ピス、ジュビチュリリ」などと細かく複雑なさえずり方をするという。またさえずりを「チチージョイジョイ」と聞く人もいる。

両生類
爬虫類

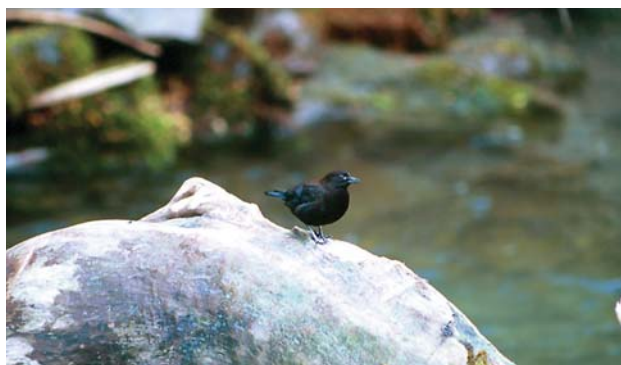
トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花



カワガラス。色は黒っぽい独特の体型を持つ

哺乳類

生息環境・分布

低山帯から高山帯までの河川。川の上流部で岩や大きな礫の間を清流が流れているところを好むという。十勝では留鳥。季節的移動は少ないが、秋から冬にかけては平野部の河川に姿を見せることもある。

分布：ユーラシア大陸東部のウスリー地方から中国東部を経て、タイ北部、ヒマラヤに分布。

日本では、北海道、本州、四国、九州、屋久島まで留鳥として繁殖する。

北海道（十勝でも）では留鳥。繁殖する。河川上流部に生息する。秋から冬にかけては、平野部の河川に飛来することがある。

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
					繁殖							

食性・他生物との関わり

カワゲラやトビケラ、カゲロウなど水生昆虫類を主に食べ、小魚も食べる。

浅い流水を歩いて採食したり、深いところでは水中に潜って採食したりする。水中では羽を半開きにして泳ぐように

したり、水底を歩いたりしているという。トビケラ類の巣からは幼虫をほじくり出したりもする。

捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は4月～6月（北海道）。

一夫一妻で繁殖する。

オスは岩の上などでさえずってなわばりを宣言する。なわばりは400～1,100mほどでオスは脅しのディスプレイ（他の個体に対して誇示をおこなう特徴的な行動）や、激しい追跡を行ってなわばりを守る。

滝の裏側や崖の裏側などの隙間、水辺近くの岩の割れ目やくぼみなどに営巣する。外側には大量のコケ類を用いて直径30cmものドーム状に作り、内側には枯草や枯葉を用いる。外はぬれていても中は乾いているという。

4～5個の卵を産む。抱卵はメスのみが行うが、オスも巣が見えるところから監視する。抱卵日数は15～21日くらい

で、育雛日数は22日くらいだという。

興味深い話

■羽毛が密生していて、尾部に大きくふくらんだ脂腺といわれる油壺があり、常に油を羽毛に塗りつけているので、水に入っても濡れることがない。

■潜水して水底を歩いたり、短い翼で水中を泳いだりして餌を捕らえる。こうした習性は日本ではカワガラスのみに見られる独特なもの。また、水に潜っているときは、羽についた空気の層が銀色に光って見えるという。

■潜水しているときには目を白い「瞬膜」（眼をまもる薄い膜）で保護するという。

■外敵などが近寄りたがたい滝の裏などにコケを材料にドーム状の巣をつくる。

■冬にはオスもメスも9割が、単独でなわばりを作って分散するという。

■冬にしる繁殖期にしる、なわばりを持った際には防衛の

ための行動を行う。水面上を「ビッ」と鳴きながら低く飛んでいくと、なわばり所有者が「ビッビッビッ」と連続音で叫ぶように鳴く。通過個体はこれでなわばり所有者の存在に気づくようで、激しい戦いや追いかけて行動が始まるのだという。

■カワガラスはメスもさえずる。

■足寄（アイヌ文化では釧路地方の文化圏）などのアイヌ語では「ウォルンカッケウ」という。

配慮事項

水生昆虫などが豊富で、滝があるような溪流が必要。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985（1995 2版21刷）
「原色日本野鳥生態図鑑（陸鳥編）」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982（1994増補版7刷）
「野鳥のくらし」水野伸彦、保育社 1996

「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ、主婦と生活社 1997

羽田健三・腰原正己（1969）カワガラスの生活史に関する研究。信大志賀自然教研業績、8：49-57.

浅見良平・芳賀良一（1983）北海道の十勝川上流におけるカワガラスの個体群生態に関する研究。鳥、32：75-94.

橋口大介・山岸哲（1981）冬季におけるカワガラス *Cinclus pallasii* の分散様式となわばり的行動。日生態会誌、31：161-170.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ